

自分の人生のシナリオは、自分自身で描けるようになる。

## プロローグ

「なぜ、あの人は会社を辞めても食べていけるのか？」

そんな疑問を抱いたことはありませんか？

何を隠そう、私も自分が自力で稼ぐようになるまでは、自分が誰からも給料をもらわずに食べていけるようになるなどとても想像できませんでした。独立して生活している人を見て「いったいどうやって？」と、いつも思っていました。そして、

「どうせ親の家業でも引き継いだのだろう」とか、

「何か悪いことでもして元手を貯めたのだろう」とか、

「たまたま運が良かったのだろう」とか、

「特殊な才能があったのだろう」などと、

勝手に考えていました。

今思えば、そう考えることで自力で稼いでいけない自分を正当化していたのかも知れません。

しかし、現実には会社に勤めずに生活している人はたくさんいます。さらに、会社

に勤めている人の何倍も稼いでいる人も相当数います。

「一体どうやって?」

本書は、そんな素朴な疑問に答えることを目的に書きました。自力で稼ぐ力を養うために必要なモノの考え方や行動を、本書でお伝えしようと思います。

ところで『県庁の星』（桂望実／小学館刊）というマンガをご存知でしょうか？

県庁のキャリア公務員を題材にしたマンガで、映画にもなりました。公務員の幹部候補生がスーパーマーケットに出向、自らの学歴やキャリアがまったく通用しない商売の世界で「仕事とは何か」を学び直すというヒューマンな作品です。幹部候補生として雇われたのに、ポスト不足で子会社に出向させられ、本社に戻る目処も立たないまま時間だけが過ぎていく……直属の上司は、現場をよく知る高校生のアルバイトとパートのおばさん……。

漫画ですから、このようなことは笑い事で済みますが、実際に自分の身に降りかかったらどうでしょう。笑いごとではありません。厳しい就職戦線を勝ち抜いて、一生懸命自分探しをしてきたのに、

「一体自分は何をやっているんだ!」

そんな風に、焦らずにいられないはずです。

終身雇用、年功序列が保証された時代なら、そんな経験も笑い話かも知れません。しかし、リストラされるかも知れない、会社が無くなるかも知れない、給料は頭打ち、年金や退職金も危ういという昨今、

「こんな仕事をしていて大丈夫か!」

と不安を覚えるはずです。

私にも似たような経験があります。新卒で入社した大企業で12年間正社員として働きました。しかし、入社してからしばらくの間は、ひたすらはっぴを着て、スーパーやパートの店頭、駅や空港などの人通りの多いところで会社のチラシを配っていました。その時はさすがに、「こんなことをやっていて自分は大丈夫か!」と焦りました。仮にこのようなキャリアしか持たない人間が転職を希望したとしても、どここの会社も採用しないでしょう。私自身が採用担当者だったとしてもお断りです。

最近、将来のキャリアへの漠然とした不安から、新入社員がものすごい勢いで会社を辞めています。2000年の厚生労働省の「新規学校卒業就職者の就職離職状況調

査」によると、大卒入社3年以内の離職率は36.5%。実に3人に1人が辞めていく計算になります。これも、

「このままでは、やばい！」

と、若い世代ほど敏感に感じているからに違いありません。

これに対して、スキルアップに熱中して自分の将来に備えようとするビジネスパーソンが少なくありません。英語の習得やIT系のスキルの習得、ファイナンシャルプランナーなどの士業の資格取得、MBAを取るなどです。

しかし、こうしたスキルを身につけさえすれば、路頭に迷わなくて済むかというと、そんなことはありません。

スキルは実務経験が伴ってはじめて役に立つものです。いくら英語が上手に話せても、金融知識がなければ外資系証券会社には入れません。一生懸命勉強してファイナンシャルプランナーの資格を取得したとしても、実際に会社でファイナンシャルプランナーの仕事をしえない限り、宝の持ち腐れです。どれほど勉強しても、

「不安が一向に解消しない」

と焦り続ける人は、いくらでもいるのです。

実は私自身がそうでした。

私はバブル入社組で、バブルが弾けたときに将来が不安で、英語、パソコン、会計知識など、ありとあらゆるスキルアップに手を出しました。中小企業診断士の資格まで取得しました。

しかし、これらを手に入れても、将来に対する不安は全然払拭できませんでした。会社では、このようなスキルを活かす機会などまるでありませんでした。「上司に言われたことを実行するだけの兵隊に、専門知識など邪魔」とばかりに活かすチャンスは全く訪れませんでした。

実務の伴わないスキルなど何の価値もありません。せつかく身につけたスキルが、みるみるさびついていくのを感じました。

さらに、身に染みて感じたのが「資格を取得しても、自力で食べていく力がついたわけではない」ということでした。一生懸命勉強して、お金を生み出す打ち出の小槌を手に入れるつもりでしたが、手にしたのは、人事部や面接官に自分の背を少しだけ高く見せるためのシークレットブーツ程度のものでした。

そのことに気づいてから、私は大きく軌道を修正しました。**雇われずに食べていく**

**方法を追求することを決意したのです。**

まず、会社に勤めたまま先輩コンサルタントのところに弟子入りをして、週末を使って修業しました。ここで「雇われずに食べていく」とはどういうことなのかを学びました。他にも、自力でどんな仕事を開拓していきました。

週末の仕事が軌道に乗るようになり、副収入が本業と同程度、月収50万円を超えるまでになったことが転機となりました。こうなれば、いつでも会社を辞められます。結果、上司や同僚に対しても顔色をうかがうことがなくなり、自信を持って接することができるようになりました。何より、左遷など会社の理不尽な処遇やリストラ勧告に怯えることがなくなりました。その結果、皮肉なことに会社からの評価も上がり始めたのです。

会社に依存し、会社に生殺与奪の権利を握られている「ぶら下がり人間」だった自分が、自力で食べていく力を身につけたことで、会社と対等の自立した人間「オトナサラリーマン」に生まれ変わることができました。

現在、日本経済は戦後最長の「いざなぎ景気」を上回るといわれる好景気のまった

だ中にいます。しかし、それを実感できている人はほとんどいないと思います。理由は、企業が儲けを社員に還元しないからです。また、不景気に備え、「いざとなったら雇用調整を行おう」という前提で活動しています。だから、雇用を増やしたと言っても、採用するのはパートやアルバイトなどの非正規社員ばかりです。転職市場も好況で、売り手市場と言われてますが、本質は何も変わっていないのです。

倒産やリストラの恐怖は相変わらずですし、仮に会社に勤め続けることができて、定率減税の廃止や社会保険料のアップなど、いわゆるサラリーマン増税などを通じて、締めつけは厳しくなるばかりです。このままでは、中流と呼ばれてきたサラリーマンも、一気に下流に転落するおそれがあります。

このような厳しい時代に生き残るには、確実に稼ぐ力を身につけることです。その際、スキルアップのような甘っちょろいやり方は気休めです。いざとなれば、会社と一戦交えるぐらいの覚悟が必要です。大国に生殺与奪を握られている状況を打破すべく、小国が核武装するように、**サラリーマンも自分の身は自分で守るための武器が必ずあります。それが自ら「稼ぐ力」です。**

本書では、自力で「稼ぐ力」を身につけるには「どんなことに気をつければいいのか？」

か」「どういう力を伸ばせばいいのか」「どんなものにお金を投資していけばいいのか」といったことを書きました。私の実体験とサラリーマンを起業家に育てる日頃の活動を通して得た体験を基に書いています。

「本書を読めば、必ず起業して成功できます！」などと大風呂敷を広げるつもりはありません。しかし**ここに書いてあることすら知らずに会社を飛び出せば、必ず失敗します**。本書では、そんな何も知らずに起業した人が踏んでしまいがちな地雷のありかをお教えします。

もちろん、「会社を辞める」人だけが対象ではありません。「企業人として一生を過ごしていく」と決意したあなたであっても、自力で「稼ぐ力」はぜったいに必要だからです。なぜなら、あなたが望まなくても、会社が無くなったり、会社から放り出されたりすることは、十分にあり得ることです。

それに、「稼ぐ力」の持ち主なら、社内でも有用な人間としてみなされるはずですが、また、万が一転職するようなときにも、有利に交渉を進めることができます。結果的にリスラのリスクヘッジにもなるはずですが。

このように、稼ぐ力を身に付け、会社を頼らずに生きていくことで、会社にとってかけがえのない人材になることができます。ですから本書は、

「同じ会社で同じようなキャリアを積んでいるのに、なぜ出世する人と出世しない人がいるのだろうか？」

「四六時中、休む暇もなく働いているのに収入が低い人と、ほとんど仕事らしい仕事をしていないのに収入が高い人がなぜいるのか？」

そんな疑問にも答えることができます。と思います。

さあ、自分がサバイバルしていく上で本当に価値あるものに自己投資を始めるときです！ ではさっそく、レッスンをスタートしていきます！

会社においても、飛び出しても、うまくいく人の考え方

# 稼ぎ力

## 人間力

家庭力

家族説得 戦力化

家族の幸せ支援

職場人間力

コミュニケーション

ネットワーク

社外人間力

パートナー

取引先

メンター

自カ本願

組織図

捻出力

技術

早起力

節約

同時進行

生産性up

時間力

時間  
倍増力

時間を買う

アンチ切り売り

他人時間活用

スケジュール力

方針・目標設定

計画性

人生の完成図

お金力

ビジネス構築力

儲けのツボ発見

ビジネスプラン

複数の収入源

値付け

アンチ薄利多売

投資力

訓練

失敗想定

ケチらない

計画管理力

BS/PL

契約書

銀行口座

見積

継続力

